

お元気ですか

発行所・(福)横浜市社会福祉協議会
障害者支援センター

〒231 横浜市中区桜木町1丁目1番地
-8482 横浜市健康福祉総合センター9階
TEL 045 (681) 1211・FAX 045 (680) 1550
http://www.yokohamashakyo.jp/siencenter/
編集発行人・沼尾 雅徳

2011 / 12

福島県の被災障がい者を支援して

JDF被災地障がい者支援センター

ふくしま代表 白石清春

白石清春さんは昭和五十五年神奈川県相模原市で「脳性まひ者が地域で生きる会」を作り、地域作業所「くえびこ」を開所。その後平成元年、福島へ。NPO法人あいえるの会理事長として活動している。今回、JDFとして、被災地支援センターを立ち上げたので、その状況を報告(投稿)して頂いた。

三月十一日東日本大震災の後、十九日に被災地障がい者支援センター(以下支援センターと略す)を立ち上げた。白石清春さんは、入所施設に避難したという情報もあつて、私たちは福島県内のすべての入所施設を回って確認作業を行った。しかし、入所施設



JDF被災地障がい者支援センターふくしま代表の白石清春さん

にもあまりいらつしやらなかった。いったいどこに被災障がい者がいるのか未だ分からない状況がある。今回、南相馬市の市長の英断から唯一名簿を提出していただいて実態調査を行うことが出来た。現在、私たちは福島県内の仮設住宅を回って被災障がい者の所在確認活動を継続的に展開している。国、自治体、皆さんのさらなる支援をお願いしたい。

私たちには自らの力で、福島県内の避難所をくまなく回つたが、障がい者の姿はあまりなかった。避難所は学校の体育館などが多く、障がい者、特に身体的重度障がい者にとっては避難生活が難しいということもあつて、障がい者の姿が少なかったのだと思う。郡山市の大規模避難所「ビックパレット」では、入所施設に避難したという情報もあつて、私たちは福島県内のすべての入所施設を回って確認作業を行った。しかし、入所施設

東日本大震災「障がい者支援募金」にご協力を

※JDF(日本障害フォーラム)とは
第二次アジア太平洋障害者の十年の推進及び日本の障害者施策の充実等を目指して、二〇〇四年十月に設立。全国の障害者団体を中心としたネットワーク組織。
※次号は、「障害児・知的障害・発達障害者関係団体災害対策連絡協議会」の被災地支援報告を掲載する。

被災地で暮らす障害のある方たちを支援す

振込先
ゆうちょ銀行から振込み
口座記号番号 〇〇二〇〇八
一六七八七
その他の金融機関から振込み
ゆうちょ銀行店名 〇二九店
預金種目 当座
口座番号 〇二二六七八七
口座名義 セイフティーネットプロジェクト横浜
振込手数料はご負担お願いいたします

るために、横浜の障害福祉関係機関等で支援金を募り、被災地へ送ろうと「ALL横浜」(構成十団体)を立ち上げた。是非、募金にご協力を。

高次脳機能障害と聞いて「聞いたことも無い!」という状況は改善されたものの、地域に戻って生活を再スタートする時点で行く手が閉ざされていることに気がきます。この障害への対応は困難とも言われ、社会で生きることの難しさに直面することになります。詰まるところ、障害があつてもなくても人は皆、住み慣れた地域で、その人らしく暮らせる事、これが目指すべき道と考えるに至ります。この度の未曾有の災害も天災か、人災かを検証すると同時に社会で生きる人、皆が責任をもって日々の暮らしを守るこの大切さを心していきたいものと感じました。

大塚由美子

交通事故等による外傷、或いは病気に脳に損傷を受け、生きて行くのに必要な機能が失われた後天性脳損傷の仲間と活動を開始して十余年、救急からリハビリテーション等の医療問題、社会復帰に向けての生活、福祉の問題等に直面し、多様な角度から学び、国へ、県へと訴え、懇願し、ひたすら走り続けて参りました。

望遠鏡

被災事業所の再開にむけて



南相馬市の被災地支援の拠点「デイさぽーとぴーなっつ」

三月三十一日から市作連（横浜市障害者地域作業所連絡会）の被災地支援は始まった。今まで派遣された職員は二十九ヶ所、延べ六十六名。今回、三回被災地に行った岩山みどりさん（社会福祉法人夢二一福祉会 施設統括責任者）に取材した。

戸別訪問は、南相馬市からの依頼。四月～八月まで、JDFと全国の障害関係団体も協力して行った。市作連はきょうざれん（旧称・共同作業所全国連絡会）からの依頼で協力。白石さんが代表を

しているJDFが事務局となり、構成団体の障害者支援事業所「デイさぽーとぴーなっつ（生活介護事業・自立訓練事業実施）」がきょうざれん加盟施設から派遣された職員の活動拠点となった。

障害者手帳をもつ人を戸別訪問し、本人や家族から現況や必要な支援内容を聞いてもらった。その内容は、「医療」「住まい」「生活環境」「日中の場」「教育」など実に多様だった。

まずは、救済物資を手渡したり、通所先の再開支援を行なった。五月以降、避難先から戻る障害者が増えている。通所を希望する障害者は多いが、避難した職員がなかなか戻れない状況。

再開支援をした事業所は、定員以上の受け入れをしているので少々狭いが、通所者は元気だ。ただ、原発の話になると一変。暗い雰囲気になり、通所者の心に深い傷を刻んでいる。これからのこと

まだまだ事業所支援は必要だが、一月以降、積雪量が多くなり、道路の通行が困難になる。「今後、滞在期間の延長など支援方法について検討しなければならぬが、継続して支援をしていきたい」と岩山さんは語る。

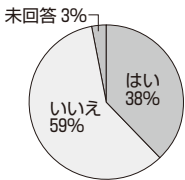
再開支援をした事業所は、定員以上の受け入れをしているので少々狭いが、通所者は元気だ。ただ、原発の話になると一変。暗い雰囲気になり、通所者の心に深い傷を刻んでいる。これからのこと

災害時、学校の登下校が心配

横浜障害児を守る連絡協議会学校部会では、毎年、神奈川県と横浜市の教育委員会への要望書作成のために会員に「学校生活に関するアンケート」を実施している。今年度は、災害時の対応に関する

質問を新たに加え、六月に実施した。アンケートの結果、学校と保護者との間で災害時の対応の確認が十分ではないことが明らかになった。また、「震災当日、学校が保護者の在宅確認をしないまま、子どもを帰宅させて困った」という声も寄せられた。

学校部会部長の塩尻さんは、「親として一番心配なのは、登下校の途中で震災が起きた時のこと。学校と家庭だけでなく、地域の方にも協力していただき、一緒に対策を考えていきたい」と語る。今後、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、関係機関へ働きかけていく。



「日ごろから学校と災害時の対応の仕方を打ち合わせしているか」

横浜ランデヴープロジェクトから「スローレーベル」誕生

SLOW LABEL
MADE IN YOKOHAMA

二〇〇九年度より、象の鼻テラスでスタートした「横浜ランデヴープロジェクト」。市内の障害者施設や企業とアーティストをつなげ、特色あるものづくりに取り組んでいる。「スローレーベル」は、その中から誕生した雑貨ブランド。そのデビューイベントが、九月二十七日(火)に象の鼻テラスで開催された。今年度より、プロジェクトのディレクターとなった栗栖さん。ご自身も、骨肉種の後遺症による障害がある。栗栖さんは、「これまで試行錯誤を繰り返しながら、アーティストと障害者施設とが商品開発をしてきた。今年度は、その製品を一般販路に乗せていく挑戦」と話す。「スローレーベル」のコンセプトについては、「大量生産では、どうしても規定枠内での企画・生産となる。しかし、障害者施設との共同開発は、一から作りたいものを自由に作る事ができる場となっている。現場では、障害者施設の手作り感を最大のメリットとしているが、この事が、日常生活の中における、アートへの取組みである」と熱く語る。

【問い合わせ】
横浜ランデヴープロジェクト事務局
電話：〇四五・二七四・八六七三
FAX：〇四五・三三〇・六八六二

デビューイベントの様子(右から2人目が栗栖さん)

所長・中堅職員向け研修会の開催

障害者支援センター

では、今年度、障害者地域活動ホーム、作業所やグループホーム等の所長・中堅職員を対象にした研修会を開催している。

所長・中堅職員に向けての研修会の大切さ

障害者支援センターでは、これまで新人職員向けや、障害者支援において必要な知識を学ぶ研修会等を開催してきたが、今年度は「所長」や「中堅職員」向けの研修会を開催。現在までに述べ二百二名の方が参加している。



メンバーとのやりとりを再現～迫力あるロールプレイの一場面～（第一回）

支援方針を立て職員

集団をまとめ、人材育成の要となる所長や中堅職員。今後も障害者の人権を尊重し、また障害者が継続的に地域で活動し暮らしていくために、人材育成と職場環境の整備についてますます力を発揮してもらいたい。

第一～三回の概要

研修会の概要は、表のとおり。
第一回は、「障害者

の人権」をテーマとし、主に虐待の防止について学んだ。講師は市川和彦氏。「不適切な関わり（虐待）」とは何か、また虐待における「支援者の心理過程」や、「怒りのコントロール方法」等について、ロールプレイを交えての講

義となった。
第二回は、大澤知子氏を講師に、「人材育成のために」職場環境の整備とワークライフバランス」をテーマ

に開催。労働基準法や育児・介護休業法改正、ハラスメントの禁止等わかりやすい解説を踏まえながら、職場環境の整備について話を聞いた。また、各事業所から質問を受ける時間を設けて好評だった。

第三回は、人材育成の一

つの方法である「スーパービジョン」について、山中達也氏に話を聞いた。今回は特に、スーパービジョンをする者と受ける者との「支持的（サポーター）な関係性」をベ

ービスに行うスーパービジョンについて取り上げた。この関係が結果として障害者の支援の質を充実させることについてわかりやすくお話をしていた。

参加者のアンケートには「普段の支援を振り返る良い機会となった」（第一回）。「管理者だけでなくスタッフ全員で正しい知識と理解を得たい」（第二回）。「自分の立場にフィッとした研修会だった」（第三回）等の反響があった。一方、「時間が足りなかった」等の意見もいただいた。障害者支援センターでは、これからも所長・中堅職員の研修に力をいれていきたい。

合同就職フェアの開催

十月十日（月）、横浜そごう九階新都心ホールにて、昨年度に引き続き障害福祉人材確保のための合同就職フェアが開催され、二百人以上の来場者で賑わっていた。

当日の会場は、求人活動を行っている三五の障害福祉団体のコーナーと、様々な分野で現在働いている職員や利用者によるトークショー、演奏やダンスが行われた。

職員によるトークショーは、「大変だけどおもしろい」というテーマで行われた。職員の皆さんの、実際に働いている現場の様子がスクリーンに映し出されたり、利用者支援においては、これまで職員自身が経験してきたこと（仕事も含めて）が活かされるなど、これから働き始める方への、まさに生のメッセージが繰り広げられていた。会場に来てい

た学生からも「なかなかブース（出展している法人等の相談コーナー）では聞く事の出来ない、職員の方が抱える悩みや仕事へのやりがいを知ることができて良かった」との声があった。

現場職員の皆さんが中心となり企画・実施したこの就職フェアで、障害福祉という現場で働く魅力が広くPRできたのではないだろうか。

合同就職フェア主催団体

横浜市、横浜知的障害関連施設協議会、横浜市障害者地域作業所連絡会、横浜市障害者地域活動ホーム連絡会、横浜市グループホーム連絡会、社会福祉法人横浜市社会福祉協議会、障害福祉部会・障害者支援センター



当日の会場の様子

あんしんノート作りと その活用に向けた取り組み

障害のある人の暮らしや願い、育ててきた家族の思いをつないでいくための「あんしんノート」。横浜でも様々な家族会が作ってきたが、重症心身障害児者にも書きやすいノートが新たに作成された。また、「書き方講座」も開催され、活用に向けた取り組みが進んでいる。

■「重症心身障がい児者のあんしんノート」

平成二十三年十月三十日(日)、シンポジウムの席でまた新しい「あんしんノート」が発表された。作成したのは、横浜重心グループ連絡会「ばざばネット」。市内で活動する重症心身障害児者の家族の連絡会。

先行して作られていた「NPO法人ゆうの風」や「三人会」がつくったノートをベースに、日常生活の介助や医療的ケアを説明する情報欄等を盛り込んだ。



ばざばネット(写真左は代表下山さん)とゆうの風(写真右は事務局長石野さん)の「あんしんノート」

「万が一の時だけではなく、普段の暮らしの安心に役立つツール。」と、作成プロジェクトの斎藤さんは語る。緊急時や災害時はもちろん、学校卒業時や暮らしの環境が変わる時に、繰り返し同じことを伝えてきたという経験は、家族(主に母親)みなに共通している。このつなぐ役割が途切れることが大きな心配である。

横濱療育医療センターの佐藤さんは、「支援機関により重要視する情報は異なるが、意思表示の難しい方達であるほど、パーソナリティを伝える情報が大切。」と語る。

横濱市から委託されて開催している「書き方講座」。今年も四方区での講座には、お子さんが小学生の親の立場

■ゆうの風「あんしんノート書き方講座」

「ノートを手に入れただけで安心していませんか?」「一人で完成させるのがちょっと負担に感じて、仲間と一緒に書いていくと、いろいろな発見もありますよ。」講座の参加者に、石野事務局長が語りかける。「わたしの記録」「親の記録」の二つのバージョンを作成したゆうの風。親の仲間達で、参加者のノート作りを応援する。今年も「活用ガイド」も作成した。

の方が多数参加していた。「ノートを作ることでこれからのことを家族で話し合う機会になってよかった。」「一人で書くには負担だが、写真を貼ってみたい、いろいろな工夫が仕方を知って気持ち楽になった。」という感想がきかれた。二月には個人相談会も準備しており、先輩がアドバイスして下さるそうだ。

■ノートは活用が大事

シンポジウムでも講座でも、本人と家族があんしんノートを育てることの大事さが語られている。支援者も一緒にノート作りに参加することが、このノート活用の一歩になるだろう。

【問合せ先】

*ばざばネット事務局
FAX: 045-381-9807(嶺)、Eメール: pazapanet@live.jp
*NPO法人ゆうの風
電話/FAX: 045-472-3833(石野)、Eメール: ykaze1017@you-kaze.main.jp
※記事内のあんしんノートは、会のホームページからダウンロード可能です。



横濱YMCAワークサポートセンター

久保貴由

私は、横濱YMCAワークサポートセンターに通って二年半になります。私が紹介するのは、奥津さんです。毎週一回お手伝いに来てくれます。私は、洗濯や掃除の担当をしています。奥津さんは僕の仕事(洗濯物たたみ、外掃除、流し場掃除)と一緒に手伝ってくれます。洗濯物たたみは、最初とても難しかったのですが、エプロンのたたみ方、帽子のしまい方などをひとつひとつ教わりました。例えば、エプロンはきつく丸めるとシワになるなどです。今では私が自信をもってできる仕事になっていきます。外掃除では、自分はやり残しをよくしていましたが、奥津さんと掃除をする中で、「丁寧に仕事しなさい」と



仲良くVサイン!(右が奥津さん)

奥津さんにアドバイスされ、やり残しが少なくなりました。今では外掃除を一人で真剣にやっています。流し場掃除では、食器の拭きかたや流し場の洗い方をしっかり教えてくれました。時間があると、食器棚や冷蔵庫なども拭いています。ワークサポートセンターに通っていて、とても大変な日もありますが、毎日楽しく過ごしています。奥津さんのおかげで、真剣に仕事に取り組みむようになったと思います。将来はきちんとした仕事につけるように、ひとつひとつ積み重ねて一生懸命がんばりたいです。奥津さんこれからもずっと通所者の事見守っててください。ワークサポートセンターでは、『パン工房アンジュ』にて、パンの製造・販売をしています。

横浜市障害者後見の支援制度の取り組み

シリーズ

今回は、保土ヶ谷区の障害者後見の支援運営法人である「(社福)ほごがや 障がい者後見の支援室ほごがやゆめあん」(以下「ゆめあん」)を紹介する。

担当職員

相談支援事業に長く従事してきた担当職員
の山田さんは「長いスパンでのかかわりをもつ仕事。今解決すべき課題は他機関につなぐけれど、ゆっくりじっくり寄り添ってともに生きることで、この制度のとてもいいところ」という。

「担当職員は利用者さんを支えるための下支えの役」ともいい、週末や夜は地域の会合に足しげく通い、制度の説明やあんしんキーパーの開拓に忙しい。

あんしんキーパー

登録者のあんしんキーパーからあんしんマネジャーに電話が入った。

「ご本人から『マネジャーから連絡が欲しい』との依頼です。ところで、やっと気に入ったパソコン教室が見つかったようですよ」と。

あんしんマネジャーがご本人に電話すると、訪問日時の変更希望であった。話す声の様子は元氣そうだった。「キーパーさんには『何かあったら知ら



ゆめあんのみなさんです。
後列(左から) サポーター船野さん、事務員 平間さん、サポーター加藤さん、篠塚さん、佐々木さん、星野さん
前列(左から) サポーター大野さん、山口さん、担当職員 山田さん、マネジャー岩澤さん

せてください』とお願いしています。キーパーさんとのやり取りは、

あんしんサポーター

「サポーターは、ご本人と一緒によろこび、笑うために様々なコミュニケーションの方法を工夫している。」と山田さん。

話すことが苦手な方が登録された。その方の趣味はミニカー収集。訪問時、ご本人の希望に沿って配置された何台ものミニカーをサポーターが撮影。

次の訪問時に写真を冊子にして持参すると大変喜ばれた。

日中活動の場を訪問したときも、うれしそうにあいさつしてくれ

るまでになったという。訪問のたびに冊子のページが増えていく。

また、発達障害の方が自分の気持ちをうまく伝えられるようにと、*あんしんノートも工夫した。

ご本人が話したエピソードをひとつずつ書くページを新たに加えたのだ。

ひとつのエピソードごとに、ご本人がその時に感じた気持ちを添える。具体的には「うれしかった」「いやだった」など気持ちを表すことばを、それぞれのエピソードの後に書き

連ねる。体験したこと、その時の感情とともに振り返ることで、ご本人が「うれしい」「いや」と自身の気持ち

を言いやすくなっ

「この制度は本人のための制度。ご本人の気持ちを引き出すことはとても大事。」との山田さんのことばが印象に残った。

*あんしんノート

地域で安心して暮らすため、ご本人の希望や生活状況、ご家族の思いなどの情報を、必要なときに取り出せるようまとめた記録。

制度を利用するには:

実施区に住む十八歳以上の障害のある人が、障害者後見の支援運営法人に登録して利用する。利用にあたって費用はからない。

「障がい者後見の支援室ほごがやゆめあんの連絡先住所:保土ヶ谷区星川二一ー

電話:〇四五ー三三三ー一
一四五三七
FAX:〇四五ー三三三ー一
一九五三七
窓口:月々金
九時〜十七時

横浜市障害者後見の支援制度

チームでの支援

平成二十二年十月から南・保土ヶ谷・都筑・栄の四区で始まった。

この制度は、あんしんキーパー、あんしんサポーター、あんしんマネジャー、担当職員がチームを組み、本人や家族の思いに寄り添いながら、将来の暮らしを一緒に考えていくものである。

役割

あんしんキーパー
身近なところで本人を見まもる
あんしんサポーター
本人のところへ定期訪問する

あんしんマネジャー
本人を見守る体制を作り、本人が願う暮らしができていくか定期的に確認する
担当職員

あんしんキーパーを開拓するなど、この制度を地域に広めていく



HEART MADE 通信

ハートメイド製品を横浜F・マリノスホームゲーム会場で販売

九月十八日(日)午後三時から五時四十五分まで横浜F・マリノスホームゲーム会場(日産スタジアムの東ゲート広場)に、横浜市内の三障害の地域作業所など八事業所が参加し、各事業所で作っている製品の販売を行った。販売には、事業所の職員、障害当事者の方々が販売所前で呼び込みを行うなど販売が終了するまで熱心に対応した。



東ゲート広場での販売の様子(写真右)

この日は午後六時からスタジアムで、Jリーグの横浜F・マリノスとガンバ大阪との首位争いもあり、販売が始まる頃はこの辺り

もかなりの人で賑わっていた。販売所の隣はこの広場のステージになっており、バンドの演奏と歌などで盛り上がり、周囲に人垣ができる場面もあった。

この販売事業は、横浜マリノス株式会社のご厚意により横浜F・マリノスがホームゲームを行う機会を利用して、会場の一角を無償で提供してもらい実施している。前回の七月二十三日に引き続き、これが今年度二回目の開催となった。

クッキー、パウンドケーキなどの食べ物から、ビーズ製品、木製パズル、メッセージカードなど、中には横浜F・マリノスに因んでトリコロールカラーを使った製品が陳列され、横浜F・マリノスファンにはとても魅力的なものに映ったよう

だ。製品等にもトリコロールの工夫(写真下)販売所の周りではこ



の日もたくさんの方に出会うことができた。これからもハートメイド製品の販路拡大を図っていくので、いろいろな所でみなさまのご支援とご協力をお願いしたい。

あゆみ荘 だより

○児童向けフラダンス教室、

あゆみカフェ開催！

昨年度に引き続き、十月二十九日(土)、横浜あゆみ荘障害者余暇活動支援事業として『フラダンス教室』が開催された。参加者は横浜市内在住の児童やその兄弟、保護者など計十三名。

児童は用意された華やかな衣装やレイの中から好きなものを選び、講師の阿部先生の指導のもと『月の夜』の曲に合わせて和やか



みんなで「アロハ」のポーズ

なお、当日は同時開催で『あゆみカフェ』も行われ、来場者が二階ホール喫茶コーナーでくつろぐ姿が見られた。

— 今後ともあゆみ荘ではさまざまな教室やあゆみカフェを企画中です。内容は決まり次第あゆみ荘ホームページにてお知らせします—

○「都筑ふれあいの丘まつり」開催

十一月六日(日)、「都筑ふれあいの丘まつり」が行われた。

「ふれあいの丘まつり」は、都筑ふれあいの丘に隣接している五つの施設(横浜あゆみ荘の他、都筑地区センター、都筑プール、葛が谷地域ケアプラザ、資源循環局都筑工場)が合同で開催しているイベント。あゆみ荘では、機能

にフラダンスを楽しんだ。

回復訓練室において午前の部はNPO法人として活動しているダブルダッチ(二本縄跳び)のチーム「ZERO(ゼロ)」が登壇、演技披露と観客の「参加コーナー」で楽しんだ。

午後のお母さんで編成されたママさんブラス「はまびよ隊」をお招きしてのコンサートを開催。

プログラム中、演歌メドレーでは観客がマイクを持って歌うなど、多くのお客様にご来場いただき、拍手喝采のうちに終了した。

その他、一階ロビーではお菓子、日用品ほか豪華景品も当たる輪投げコーナーが、二階ホールでは作業所のケーキと飲み物がセットになった喫茶コーナーなどが設置され、賑わいを見せた。

また、休憩・宿泊で使用する小浴室や客室など、自由に見学していただける取り組みも続けられている。

館外においても、玄関前で市内障害者地域作業所による作品販売コーナーが並び、多くの来場者が足を止めて



チームZEROのアクロバティックなパフォーマンス

いる場面が見られた。

○臨時休館および営業のお知らせ
平成二十四年一月二十七日(金)から二月九日(木)まで、都筑ふれあいの丘設備点検のため休館いたします。

【支援センター】だより

障害者支援センター平成二十四年感謝の集いのご案内

障害者団体に対し、日頃からご協力・ご支援いただいたり、方々への感謝と交流の場として開催します。

ご協力いただきました方々への感謝状贈呈式典のほか、団体のアトラクションなど、楽しい催しもあります。皆様のご参加をお待ちしております。

【日時】平成二十四年三月四日(日)午後一時

【会場】横浜ラポール
【会費】三千元